

茨城大学学報

第262号

平成17年8月～平成17年9月



新・旧の理学部棟

INDEX

- ◆「茨城大学生涯学習研究会」発足を開催
- ◆茨城産業会議との連携による「がんばる茨城産業人講座」開催
- ◆科学研究費補助金説明会を開催
- ◆学術講演会「世界最強の中性子散乱実験措置 J-PARC」開催
- ◆「子どものメディアフォーラム」を開催
- ◆夏季一斉休業について
- ◆教育学部でセクシャル・ハラスメント防止研修会を実施
- ◆工学部で「Jr. ものづくりプロジェクト」事業を開催
- ◆工学部技術部研修会（技術発表）を開催
- ◆学務事務に関する研修会を開催
- ◆サークルリーダー研修会を開催
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより

8月号・9月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

「茨城大学生涯学習研究会」発足会を開催

生涯学習教育研究センター（金子正夫センター長）では、「茨城大学生涯学習研究会」を立ち上げ、去る6月29日（水）、菊池学長及び三村信男地域連携推進本部長の出席のもと、発足会が開催されました。

この研究会は、過去三年間の大学退職者から「茨城大学生涯学習研究員」として参加できる希望者を募り、退職者の知識や経験を地域貢献として本学及び社会に役立てるとともに、退職者が相互交流できる活動拠点にすることを目的としています。

なお、当日は9名の研究員を始めとして、約30名の関係者が発足会に参加し、その後行われた懇親会でも活発な意見交換が行われました。今後、公開講座など生涯学習活動への研究員の積極的な参加が期待されます。



研究会の発足会に参加した大学OBたち

茨城産業会議との連携による「がんばる茨城産業人講座」開催

本学では、7月13日(水)から8月31日(水)の間7回にわたり、茨城産業会議との連携のもと、「がんばる茨城産業人講座」を茨城県三の丸庁舎茨城大学講座室を会場に開催し、産業人及び一般市民(高校生を含む。)延べ102名が参加しました。

この講座は、茨城県内の産業人及び一般市民を対象に、幅広い教養と視野及び独創的な能力を高めるための学習機会を提供することを目的として毎年実施し、今年で4年目を迎えます。今回の講座の特色は、生活者として、産業人として、混迷する現代社会にあって、昨年につき「心の問題」を取り上げ、明日の生活と産業再生への活力とすることを趣旨とし、こころに関連した新しい講義内容で行いました。参加者からのアンケートからは、

- ・ 2年連続の内容であったが、復習もできてよかった。
- ・ 講座の内容も他方面から学ぶことができ役に立った。来年も参加したい。
- ・ 園芸療法、食育については、新たな関心事となりました。
- ・ 日頃の荒んだ気持ちを癒し、支えられ、元気づけられた講義であった。

等の声が寄せられました。

なお、7回の内5回以上参加した者には、修了証書が授与されました。



加藤先生(教育学部)の講座の様子

最終日に金子生涯学習センターから修了証書を受け取る受講生



科学研究費補助金説明会を開催

平成18年度科学研究費補助金応募の説明会が、8月3日（水）、水戸、日立及び阿見キャンパスの3地区をバーチャルキャンパスシステムで結び開催しました。

講師には、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構理事兼独立行政法人日本学術振興会審議役の宮嶋和男氏をお招きしました。

この説明会は、科学研究費補助金に関する理解を深めるとともに、申請件数の拡大と採択率の向上を図るためのものです。

はじめに、山形理事・副学長（学術担当）から本学の採択状況等について説明後、宮嶋講師から、科学研究費補助金の概要、予算額等の推移、不正使用の防止、各研究種目の特徴、採択状況、審査・評価の仕組み、公募に当たっての留意点など具体的な事例をもとに詳細な説明が行われました。

説明会には水戸、日立及び阿見キャンパスを合わせ約160名の教職員が参加し、講演終了後も活発な質疑応答が行われ、今後の申請や補助金執行上、大いに役立つものとなりました。



説明する宮嶋講師

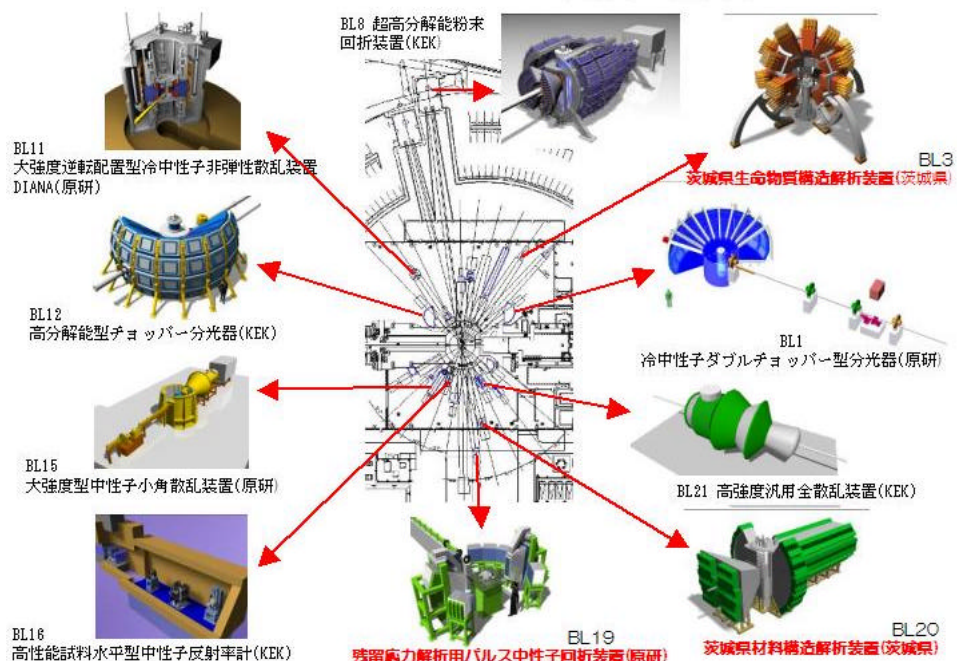
学術講演会「世界最強の中性子散乱実験装置 J-PARC」開催 (茨城大学 COE 計画に向けて)

本学では、8月6日(土)10:00~16:40、学術講演会「世界最強の中性子散乱実験装置 J-PARC」が、日立キャンパスにおいて開催されました。大学院生や教職員のほか日本原子力研究所(原研)など外部の関係者も含めて約70名が参加し、世界最先端の実験施設とそれを利用する教育・研究について認識を新たにしました。

講演会では、佐久間応用粒子線科学専攻長の挨拶に続いて、森井次長(原研)より J-PARC 中性子実験施設全体の計画概要と残留応力測定装置の説明がありました。現在、J-PARC プロジェクトチームおよび茨城県による10台の装置が先行して設計・建設中であり、このうち2台は、茨城県の要請を請けて本学が主体となって運転しながら、新しい科学技術を地元企業はじめ国内外の研究者・技術者と協力して展開する予定です。新しい装置によってどのような新しい科学技術が開かれようとしているのか、県装置設計リーダーの石垣氏(原研:材料)と田中氏(本学教員:生命)から事例を混じえ、解りやすい説明がありました。

J-PARC の登場と茨城県からの要請は、本学が地域の企業や研究機関と連携して世界を先導する中性子利用産学官共同研究推進の教育・研究拠点となることを期待させます。

J-PARCプロジェクトチームと茨城県の提案装置



J-PARC 中性子実験施設の10台の装置(全部で23台の設置が可能)

(新井正敏: 高圧力の科学と技術、14巻(2004),119-127:「J-PARC 中性子実験施設の現状」より)

「子どものメディアフォーラム」を開催

本学では、8月8日、9日、10日、22日および23日の5日間、教育学部附属中学校生徒の希望者を対象に、文部科学省の「子どもの居場所づくり」キャンペーンとして「子どものメディアフォーラム」を開催しました。

これは、子どもたちに係わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の緊急課題に対し、未来の日本を創る、心豊かなたくましい子どもを社会全体で育てるため、緊急かつ計画的（3カ年計画）に子どもたちの居場所（活動拠点）を整備することを目的としており、本学では、初の試みとして「インターネット子ども教室」を学術企画部が担当し開設したものです。

会場は、学術情報局 IT 基盤センターのマルチメディア教室を利用して行われ、教育学部戸塚研究室の学生が教え役となり、「インターネットってどんなもの？ インターネットでなにができるの？ インターネットは安全なの？」等をテーマとして学習しました。

後半は「附中改造計画」と題して、班別に意見をまとめ、パワーポイントを利用して発表が行われ、国立大学法人となった附属学校の経営にまで及ぶ報告もありました。菊池学長も視察に訪れ、子どもたちの発表に聴き入っていました。

フォーラムでは、参加した生徒が熱心に取り組みインターネットの利便や危険を自ら学ぶことが出来ました。また、教え役の16名の学生ボランティアにとっては、教育実習とは違った教育の勉強となりました。これらの成果は、居場所としての良好な環境を提供できたことが功を奏したこともあります。何よりも関係した全員のチームワークによる成功でありました。

新しい「子どもの居場所づくり」の整備のためには、大学がどのような役割を果たせるか、今後、参加者数を増やした場合の環境の提供、近隣の学校と連携等が新たな検討課題となりました。

最後に、子どもたちが「インターネット子ども博士」の称号修了証を手にしなが、「楽しかったー、ありがとうございます。」の言葉が印象に残りました。



修了証を授与される中学生たち

夏季一斉休業について

本学では、省エネルギー活動及び地球温暖化防止対策への取り組みへの一環から、以下のとおり一斉休業といたしました。

一斉休業期間中は、一部の教育研究業務を除き、各部署の業務を休止し、事務窓口等を閉鎖いたしました。

キャンパス 一斉休業期間

水戸キャンパス（図書館本館、教育学部及び附属学校園は15日のみ）・阿見キャンパス

8月15日～8月16日

日立キャンパス 8月15日

教育学部でセクシュアル・ハラスメント防止研修会を実施

本学教育学部では附属学校園教職員を対象に、8月18日(木)川村学園女子大学教育学部 内海崎貴子助教授を講師に迎え、「教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント - その問題構造と防止対策 - 」の講演会を大学会館第7, 8, 9集会室において実施しました。

本学では、これまでも学内の教職員に対し、研修会やセクシュアル・ハラスメント防止ガイドライン、ポスター、ワッペン等を配布し、職場でのセクシュアル・ハラスメント防止の啓発活動を実施してきており、今回の研修会は、セクシュアル・ハラスメントに対する更なる認識を深め、附属学校園教職員の資質の向上を図ることが目的で、田代学部長はじめ71名の教職員が参加しました。

研修会では、田代学部長の挨拶、三浦附属学校委員会委員長による講師の紹介に続き、内海崎助教授が「教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント - その問題構造と防止対策 - 」と題した資料に基づき、スクール・セクシュアル・ハラスメントの現状など事例説明が行われました。

最後には、参加者による活発な質疑応答が行われ、参加した教職員の更なる意識改革の必要性を求められた意義ある研修会となりました。



研修会に参加した附属学校園の教員の皆さん

工学部で「Jr.ものづくりプロジェクト」事業を開催

本学工学部では、8月22日(月)、24日(水)、平成17年度工学部開放イベントとして「Jr.ものづくりプロジェクト『最近の加工技術を応用し、世界でたった一つのオリジナルプレートをつくろう』」(代表 機械工学科 大島郁也 講師)を開催しました。

参加者は近隣の市町村の小学4年生から6年生までの26名でありました。

「NC工作機械でネームプレートをつくる」のグループ16名は、初日の午前中に総合情報処理センターで数値制御プログラムを学習し、午後は参加者各自がデザインを考え、加工プログラムを作成しました。2日目は、作成したプログラムを用い、アルミニウム板にマシニングセンターのエンドミルでネーム加工しました。

また、「金属を溶かしマグネット付きのプレートをつくる」のグループ10名は2日目だけで自作の鋳型をつくり、溶解したアルミニウムを流し込む鋳造法でプレートを作成しました。

参加者は出来上がったプレートと感想を皆の前で披露し、プレートは記念のおみやげとし、貴重なものづくり体験をすることが出来ました。



イベントに参加した小学生および講師たち

工学部技術部研修会（技術発表）を開催

平成17年度茨城大学工学部技術部研修会（技術発表）が9月2日（金）、工学部総合研究棟で開催されました。

この研修会は、工学部技術部が主催するもので、茨城大学技術職員の実験施設や装置の維持管理、及び研究室支援に伴う技術の開発、改善等の経験により得た知識等を発表し情報の交流と技術職員の資質の向上を図ることを目的としているものです。

今年で8回目を迎え、本学職員のほか横浜国立大学、埼玉大学、群馬大学、筑波大学、筑波技術短期大学、福島高専の技術職員など80名が参加しました。

研修会は、菊池学長、白石工学部長の挨拶に続き特別講演2件、技術発表6件が行われました。特別講演では大貫教授による「電子・情報デバイスの高性能化を目的とした材料科学研究」及び杉田教授による「情報ストレージ技術の進歩」の講演が行われ、その後参加者による質疑応答がありました。また技術発表では本学技術職員のみならず福島高専の技術職員による発表もあり、より幅広い情報の交流が行われました。

研修会後の懇親会では、日頃交流する機会の少ない本学技術職員にとって、他大学技術職員との相互交流・親睦が深められ、大変有意義な交流の場となりました。



学務事務に関する研修会を開催

本学では、去る9月7日から8日までの2日間、学務事務の共通理解と窓口事務による接遇等、学務事務職員の資質向上を目的として、柴崎学務部長をはじめ学務部係長及び学部学務系係長を講師とした研修会を水戸キャンパスで行いました。

研修会は、村中副学長（教育担当）挨拶の後、学務系係長が各職場における問題点・課題等をテーマに各々講義を行いました。また、学務部長は「学務系職員として、各職場でのリーダー的役割について」と題した講義を行い、今後の大学の対応など参加者の理解を深めました。接遇研修では民間企業から講師を招いて、窓口対応及び電話対応のマナーを中心に、立居振る舞いや表情の出し方などの研修を行いました。

この研修会は、本学では初めて実施されたもので、参加者は学務系職員のみでなく、総務部及び財務部等の職員を含め総勢70名の参加者があり、質疑応答においても活発な意見交換が行われ、学務系業務の共通理解が図られました。



接遇研修の様子

サークルリーダー研修会を開催

本学では9月20日(火)～21日(水)、サークルリーダー研修会を茨城県女性プラザ(レイクエコー)にて開催しました。この研修会は、サークルの次期リーダー等を集め、リーダーシップの育成及びサークル間の親睦と相互理解を深めることを目的とし、毎年開催されているものです。

村中副学長(教育担当)の講話の後、茨城県教育庁生涯学習課社会教育主事(学習支援担当)橘川栄作氏、特定非営利活動法人WILL「茨城の暮らしと景観を考える会」理事事務局長三上靖彦氏を講師に迎え、リーダーのあり方・理想像をワークショップのなかでグループ活動を中心にセッションが行われました。楽しみながらリーダーとしての役割を学び取れるよう様々な工夫された研修プログラムに、参加した24名(女性12名)の各サークル代表等の学生さんからも活発な意見発表もあり、大変有意義な研修会となりました。



参加したサークルを代表する学生及び講師

- 「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 8月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年8月4日(木)・・・茨城大学教育学部「茨城県近代美術館 :造形ワークショップの活動紹介」 (教育学研究科2年次平山さん)

本学では、6年前から茨城県近代美術館とのインターンシップ授業を実施してきました。夏休み中に2週間開催される、美術館の事業「子どものための美術館ワークショップ」の企画運営に、茨城大学の学生たちが携わる授業です。授業名は「総合演習M」「美術館ワークショップ」で、この授業に参加するのは美術専科に限らず、子どもたちと一緒に活動することに興味のある学生たちです。今年は50人近くが集まり、美術館と夏を盛り上げています。



写真の右が小田切アナウンサー
教育学部
美術教育講座の皆さんと
参加している子供達です

NHK水戸放送局公開スタジオにて :左から
横田さん、中谷さん、市田さん、葛迫さん、平山さん、山田さん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。

－「NHK県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 9月号－

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「わいわいデジタル便り」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成17年9月8日(木)・・・茨城大学ビデオ制作班：原子力事故防災マニュアル(ビデオ)
(理学部数理科学科4年次本多さん)

茨城大学ビデオ制作班では、平成11年(1999年)9月30日に東海村で発生した原子力事故を教訓にして、もし原子力事故が発生した場合にどのような行動を取ったらいいか、学生の視点で平成15年(2003年)5月に映像化しました。

ビデオは、1. 建物の中、2. 屋外、3. 家の中、4. 車の中の4つのシーンを想定して制作しました。臨界事故から6年が経過しようとしており、あの当時の混乱も、私達を含め地域の皆さんからの記憶が薄れつつある時期かと思います。もう1度あの時に立ち返って、どういった行動を取ればいいのか再度確認していただこうと思いました。



写真の左が小田切アナウンサー
中央の3名が出演者の
茨城大学ビデオ制作班の皆さん

NHK水戸放送局収録スタジオにて：左から
熊沢先生、本多くん、葛西さん、深山さん、小田切アナ

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

※デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。